

被災建築物のアスベストにご注意ください!

災害によりアスベストが露出・破損している例

アスベストを含む建材は、築年数の古い建物の様々な箇所に使用されている可能性があります。

特に、アスベストを含む吹付け材や保温材等は、飛散性が高いため、注意が必要です。



吹付け材が露出している例



破損、落下したスレート波板

写真提供 (一社)建築物石綿含有建材調査者協会

アスベストによる健康障害を防ぐために

アスベストを吸い込むことで、肺がんや中皮腫などの健康障害が生じるおそれがあります。被災建築物周辺で作業を行う場合、以下の対応をとりましょう。

- ☐ 適切にマスクを着用すること(裏面参照)
- ☐ アスベストらしきものを見かけた場合、近づかないこと
- ☐ 近くで作業する必要があるときは、養生などの措置をとること(裏面参照)
- ☐ 建材の解体、廃棄は専門の業者等に任せること

適切なマスクの着用

- ・**防じんマスク（粒子捕集効率95%以上）**を着用しましょう。
- ・**しっかりと顔に密着させ、正しくマスクを装着**しましょう。



使い捨て防じんマスク例
(規格 DS2)

間違った防じんマスクのつけ方に注意しましょう

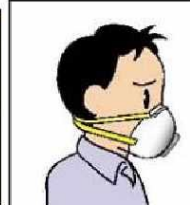
(使い捨て式防じんマスクについて「悪い例」の紹介)



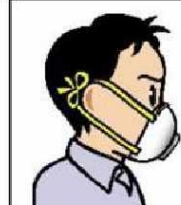
しめひもが片側
はずれている



マスクが上
下逆さま



しめひもが首
元で2本がけ
になっている



しめひもを加
工して耳かけ
式にしている

養生などの措置(例)

○ 養生

ビニールシートなどによって飛散防止を図る。



ビニールシートによる石綿飛散防止措置

写真提供

(一社)建築物石綿含有建材調査者協会

○ 散水

散水により湿潤化する。

○ 立入禁止

建築物等の周囲をロープなどによって区切り、立入禁止とする。

問い合わせ先

熊本労働局 健康安全課 TEL 096-355-3186
又は最寄りの労働基準監督署